



2019年8月6日

各位

会社名 藤田観光株式会社
 代表者名 代表取締役兼社長執行役員 伊勢宜弘
 (コード番号: 9722、東証第一部)
 問合せ先 取締役企画グループ管掌 和久利尚志
 (TEL. 03-5981-7723)

第2四半期連結累計期間業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

2019年2月14日に発表いたしました2019年12月期第2四半期連結累計期間(2019年1月1日~2019年6月30日)の業績予想と、本日発表の第2四半期決算実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、あわせて同日に発表いたしました2019年12月期の通期連結業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2019年12月期 第2四半期 連結累計期間業績予想と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 34,200	百万円 △400	百万円 △400	百万円 △200	円銭 △16.69
実績値(B)	33,605	△153	△64	△131	△10.98
増減額(B-A)	△594	246	335	68	
増減率(%)	△1.7%	—	—	—	
(参考) 前期第2四半期実績(2018年12月期第2四半期)	33,591	△64	△29	△32	△2.68

2. 第2四半期連結累計期間の予想と実績値との差異理由

主な差異理由は、売上面ではWHG事業は客室稼働が当初予想並みに推移したものの、一部エリアでは、競合ホテルの相次ぐ開業に伴う価格競争の影響などにより、客室単価の伸び率が鈍化し減収(前回発表予想比△約3億円)、ラグジュアリー&バンケット事業では婚礼件数および人員の減少トレンドが継続し減収(同比△約3億円)、連結全体では約6億円の減収となりました。一方、費用面におきましては、生産性向上をはじめ各種施策を推進したことでコストが減少、これに加え、新規開業ホテルに係る費用等が一部下期へ繰り延べとなった結果、利益では各セグメントで増益に転じ、連結全体では前回発表予想比で営業利益は約2億円の増益、経常利益は約3億円の増益となりました。

3. 2019年12月期 通期連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 72,000	百万円 900	百万円 900	百万円 300	円銭 25.04
今回発表予想(B)	70,300	900	900	300	25.04
増減額(B-A)	△1,700	—	—	—	
増減率(%)	△2.4%	—	—	—	
(参考) 前期通期実績(2018年12月期)	69,285	1,099	1,105	556	46.46

4. 通期連結業績予想の修正理由

下期の売上面は、WHG事業では競合ホテルとの価格競争は更に激化すると見込んでおり、また、昨今の国際情勢によるインバウンド集客への影響等も勘案し減収(前回発表予想比△約5億円)、リゾート事業では、概ね当初予想並みに推移する見込みですが、本年5月19日に箱根山噴火警戒レベルが1から2へ引き上げられた影響を勘案し減収(同比△

約2億円)、ラグジュアリー&バンケット事業では、宿泊・宴会・料飲の各部門で婚礼の減少を補うだけの収益が見込めず減収(同比△約4億円)と、連結全体では下期は前回発表予想から約11億円の減収を見込んでおります。

以上のとおり、通期の連結業績といたしましては、売上高は前回発表予想から約17億円減収の703億円を見込みます。一方で、費用面では各種施策の推進による費用の減少のほか、コストの見直しを進めることで、通期の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、修正は行わず、前回発表予想どおりを見込んでおります。

なお、今後の状況の変化や、業績に応じて修正の必要性が生じた場合は、速やかに公表いたします。

(単位:百万円)

	上期 第2四半期累計期間 (1月～6月)		下期 (7月～12月)		通期 (1月～12月)	
	実績 (8/6発表)	前回予想比 (2/14発表)	今回予想 (8/6発表)	前回予想比 (2/14発表)	今回予想 (8/6発表)	前回予想比 (2/14発表)
売上高	33,605	△594	36,695	△1,106	70,300	△1,700
WHG事業	18,394	△305	20,106	△495	38,500	△800
リゾート事業	2,615	15	3,085	△215	5,700	△200
L&B事業 ※1	11,295	△304	11,805	△396	23,100	△700
その他	2,651	51	3,049	△51	5,700	—
調整額 ※2	△1,351	△51	△1,349	51	△2,700	—
営業利益	△153	246	1,053	△246	900	—
WHG事業	1,015	115	1,585	△115	2,600	—
リゾート事業	△493	106	△157	△106	△650	—
L&B事業 ※1	△198	1	198	△1	0	—
その他	△447	2	△503	△2	△950	—
調整額 ※2	△29	20	△71	△20	△100	—
経常利益	△64	335	964	△335	900	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△131	68	431	△68	300	—

※1 L&B事業…ラグジュアリー&バンケット事業

※2 調整額…セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用によるものであります

以 上